

Welfare [ウェルフェア]

2014年度社会福祉助成事業 助成先決定!

2014

53

CONTENTS

P2 くっきり! 福祉の未来形 ~2013年度日社済助成事業報告

「自閉症支援トレーニングセミナー2013」

— 社会福祉法人 足羽福祉会 —

第15回市民フォーラム「介護保険を考える」

— 社会福祉法人 徳心会 —

P6 アジア社会福祉事業視察

台湾福祉施設レポート

P8 「空飛ぶ車いすプロジェクト」韓国レポート

日韓の学生とスタッフのボランティア活動

P10 2014年度社会福祉助成金交付団体

P15 福祉の共済コーナー

ジブラルタ生命「ボランティア・スピリット賞」

●事業成果報告集

自閉症支援トレーニングセミナー2013

社会福祉法人 足羽福祉会

課長 渡辺 浩基

一、はじめに

当法人は、昭和42年の創立以来、「共に生き、共に集う、光を求めて」の理念の下で、赤ちゃんからお年寄りまで安心して利用できる総合施設として、一人ひとりの幸せ、生活の保障、そして生きがいのある成長を目標に取り組んでまいりました。

昨今、介護保険法改正や障害者総合支援法をはじめとする社会保障制度改革の荒波が押し寄せている中ではありますが、皆様に安心してサービスを利用していただくことを第一に考え、また質の高いサービスを維持していくるよう、人材育成には特に力を注いでいます。

二、事業の概要

平成25年11月16日・17日に当法人の研修セ

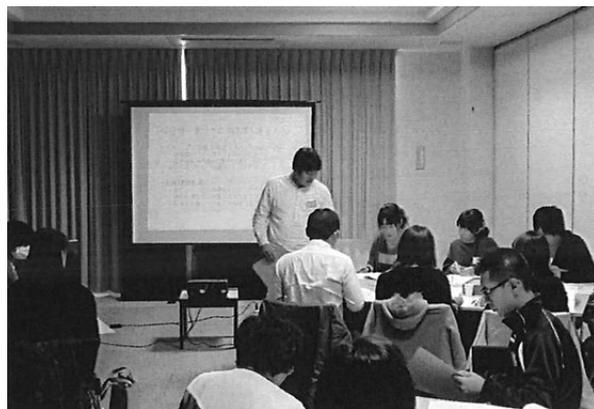
ンターにおいて、福井県内において自閉症スペクトラムの方々に支援等を行っている事業所・教育機関・医療機関等の職員を対象とした研修事業「福井県自閉症支援トレーニングセミナー2013」を実施しました。実施にあたり、講師には川崎医療福祉大学(特任講師)重松孝治先生を筆頭とし、計3人の講師の方々とそれを補助するアシスタント6名と自閉症の当事者の方々(以下モデル)3名にご協力いただきました。

研修内容は、講義とグループワークを主体として構成しています。受講生は18名と少数ですが、グループワークではモデルの方々を世代別(学齢期(小学生)学齢期(中学・高校生)成人期)に分け、そのモデルの方々に講義とグループワークで学んだ成果を繰り返し実践することで、その学んだ成果を確認しながら進めていくという形式で実施しました。

三、事業の成果

本事業の受講生は福祉サービス事業所、医療機関、教育機関等で従事される方々で、各現場において日々自閉症スペクトラムの方々に支援する立場にある方です。そこで正しい知識と本人理解に即した「評価」に基づく支援を考えていくことの重要性が本事業を通して、実感していただくことができました。具体的には1日目は自閉症スペクトラムの方々の特性に配慮した適切な「伝え方」を、2日目は自閉症スペクトラムの方々からの情報の「受け取り方」を中心に学びました。双方向のコミュニケーション手段を理解することで、適切な支援を検討することができました。

両日とも専門家における講義とその内容に即した実践を、1グループ6人の小さなグループに分かれ、そのグループワークを通して、モデルの方々への支援を検討し実行する。実行して得られたその評価に基づき、再検討する。また再度実行し、評価していく。このPDCAサイクルを行い、自閉症スペクトラムの方々の理解に近づくことができました。本事業終了後も、ここで学んだ知識や得られた経験を踏まえて、帰属する組織内において自閉症支援における中心的な役割を担うことができる存在となっていたことでその事業を利用者される障害当事者の方々の生活上の課題が解決し、QOLの向上を目指しています。



講義

また参加者同士がネットワークを組織することで、支援上の課題に直面した際にお互いに実践を通して学んだ経験も踏まえ、助言や実践した工夫について話し合う事ができるような関係の構築を目指し、研修終了後も情報交換等の機会を設ける事を計画しています。本事業を継続して行う事で、障害特性やその特性による行動の背景への理解を得られない事によって、「問題行動」とされ、行動をとられている本人にその責が帰せられ、正しい本人評価がされずに、生活しづらかった方々に、正しい理解で適切な支援を提供し、自閉症スペクトラムの方々に対する支援者のスキルアップを図ることはもちろん、当事者の方々の生活のしづらさを改善できる環境が整えられることを成果として捉えています。



グループワーク



グループワーク

四、成果の広報・公表

本事業開催に向けて、福井県内の福祉サービス事業所、医療機関、教育機関等に受講生を募りました。また、3人の講師をサポートするアシスタントの方々も募集するために、各関係機関に協力をいただき広報活動を行いました。本事業を継続して開催していくことの重要性と必要性を、セミナー終了時に受講生の方々へ次回開催のアナウンスを行いました。その際には次回開催時にご協力いただける方についても募集しています。

本事業について当法人のホームページや同じく当法人の次回（4月発行予定）の広報誌（2220部発行し、当法人を利用されている方やそのご家族、県内外の関係機関には配布している）に掲載する計画をしています。

●事業成果報告集

第15回市民フォーラム「介護保険を考える」

社会福祉法人 徳心会

園長 中川 秀一

一、はじめに

当法人は「いかなる時も公正な態度を保ち、自立した活動を通じて地域に貢献する」を法人理念とし、平成2年3月20日に社会福祉法人徳心会が創立されました。

平成3年4月20日に青梅市に特別養護老人ホームあゆみえん、平成16年8月1日に大田区に特別養護老人ホームいずみえん、平成22年5月1日に武蔵野市に特別養護老人ホームさくらえんが開設されました。

平成23年6月2日に三鷹市に法人本部事務所を開設し、本部事務所定期的に三施設の職員が一同に集まり会議を開催し、各施設で行われている業務の一元化を図り業務の合理化、省力化を目指しています。

二、事業の概要

平成25年11月16日(土) 13:30～16:30 第15回市民フォーラム「介護保険を考える」を開催しました(来場者数169名)。第1部は、淑徳大学コミュニティ政策学部教授の鏡論氏よりレジュメを元に60分間の講演にて、介護保険の現状や今後の介護保険改正の動向などを解説しました。

休憩時間中には、あゆみえん職員による腰痛予防体操を、来場者の方々にも参加して頂き実施しました。

第2部は、淑徳大学コミュニティ政策学部教授の鏡論氏、青梅市健康福祉部高齢介護課長の武藤裕代氏、青梅市地域包括支援センターすえひろセンター長の水村美穂子氏、特



講演

別養護老人ホームあゆみえん介護課課長の佐々木恒太がパネルディスカッションに参加し、介護福祉ジャーナリストの甘利てる代氏がコーディネーターを務め、介護保険制度に関する質問や、会場からの質問にお答えいただき、制度改正の動向や市民が望む介護保険とするには何が必要なのか、どのような取り組みが必要なのかについての議論を深めました。

三、事業の成果

平成10年に社会福祉法人徳心会として第1回市民フォーラムを開催し、今年で第15回目の実施となります。

本年も青梅市、青梅市自治会連合会、青梅市社会福祉協議会、東京都社会福祉協議会の後援をいただき、市内全世帯への回覧板での周知や、ポスター、ピラ等で広く地域の皆様に広報活動を行った結果、169名の市民の方や事業者の方にお越しいただきました。

本年のフォーラムは第1部に淑徳大学コミュニケーション政策学部教授の鏡論氏により、介護保険制度の仕組みや地域包括ケアシステムの説明などを含め、平成24年4月の介護保険制度の改正の主な論点や、今後の動向についてご講演をいただきました。

第2部では、介護福祉ジャーナリストの甘利てる代氏のコーディネートのもと、第1部に引き続き鏡論氏、青梅市健康福祉部高齢介護課課長の武藤裕代氏、青梅市地域包括支

援センターすえひろセンター長の水村美穂子氏をお迎えし、特別養護老人ホームあゆみえん介護課課長の佐々木恒太の4名のパネリストにて、介護保険制度改正による影響や、今後の地域包括ケアシステムに対する考え方等についてのパネルディスカッションを行いました。

また、コーディネーターの甘利氏より、第1部の鏡氏の基調講演内容を振り返りながら、市民の方々にわかりやすくまとめて下さり、鏡氏の講演内容もより深く理解することができました。

その後の質疑応答では、来場者の方から質問をいただき、パネリストの方に返答していただきました。

今回の総来場者数は169名、アンケート回収状況は80名であり、地域の方々の介護保



パネルディスカッション

険への関心の高さが伺えました。

アンケートを回収した80名のうち、初めての参加者が38名、2回目の参加者が19名、3回目以上の参加者が23名いました。

内容については、参考になつたと答えた方が53名、普通と答えた方が18名、参考にならなかつたと答えた方が1名、難しかったと答えた方が6名いました。

今年で15回目の開催を迎えたが、市民フォーラムを実施することで市民、行政、事業者などが情報交換を行う良い場となりました。

四、成果の広報・公表

社会福祉法人徳心会のホームページにて、市民フォーラムの開催報告の掲載を行います。

集計したアンケート結果については、今回コーディネート、パネリストを務めていただいた方々に対して送付します。

また、施設内では実施報告書にアンケート結果を添付し各課へ回覧します。

今回、市民フォーラム開催にあたり、青梅市、青梅市自治会連合会、青梅市社会福祉協議会、東京都社会福祉協議会の後援をいただき実施したため、開催の報告とともに、事業の概要、事業の成果についても併せて報告を行います。

アジア社会福祉事業視察

本会では、全国社会福祉協議会の招請で福祉研修に参加したソーシャル・ワーカー（研修生）などが、帰国後に研修成果を活かして企画する障害児・者や貧困家庭などを支援する事業に助成し、日本とアジア諸国の福祉交流の醸成と福祉向上を図っております。2月に高岡國士評議員、熊本滋評議員と共に台湾を訪問いたしましたので、そのご報告を致します。

常務理事 森井 輝昭

財団法人台湾児童暨 家庭扶助基金會

台湾児童家庭扶助基金會は日中戦争に巻き込まれた子供たちを支援するため一九三八年に設立されたチャイルドファンド・インターナショナルの活動に紀元を持ち、一九五〇年に設立されました。現在では、台湾国内及び発展途上国で厳しい生活を強いられている約五万人の子供たちを支援しています。

今回は全社協アジア社会福祉従事者研修第五期生・楊庭維さんが園長の台中市私立家扶發展学園を訪問致しました。

学園との会合では、台中市の福祉関係の理事長や創會長の方々の参加のもと、活発な意見交換がなされました。

終了後、学園施設をひと通りご案内いただき、平衡感訓練、生活療育訓練、物理療育訓練などの様子を視聴させていただきました。

なお、東日本大震災発生後、台湾児童家庭扶助基金會は五〇〇〇万台湾元（約一億三千万円以上）を募り被災地に義援金を寄せております。



右から高岡評議員、熊本評議員



左が楊所長



施設の子どもたち

台湾省私立台北仁濟安老所

台北仁濟院（本院）は一八六六年の開設であり、現在台北市内に「仁濟醫院」「仁濟療養院」、台北市の北の新北市淡水に「仁濟安老所」の附設機構があります。今回は老人施設「仁濟安老所」を訪ねてきました。この施設は正面に淡水河と観音山を望む風光明媚な場所にあり、情緒豊かにして天賦の楽しみを享有出来るルームを提供しております。

ルームは大雙人房（夫婦用の大きな部屋）、雙人房（夫婦用）、大単人房（大個人部屋）、単人房（個人部屋）の四種類に百二十二人の方々が入所しております。安養服務費（月額）が雙人房三万六千元（約十二万円）、単人房一万二千元（約七万円）です。



淡水河と観音山



左から2人目が陳所長

この施設では入居者の中から男子一人、女子一人を委員として任命しており、施設の説明会では陳維萍所長（第十四期生）を中心に、このお二人からも説明をいただきました。お二人とも日本語が上手でした。

説明会の後、陳所長の案内で入居者のルームをいくつか見せていただきましたが、その年齢からみなさん日本語が達者です。また、ルームや置物や布団にいたるまで日本模様になっている大の日本ファンの女性も入居しておりました。

優台公司

本会では、「アジア等の障害者への車いす修繕・寄贈事業」（空飛ぶ車いす）をおこなっておりますが、ノーパンクタイヤは日本より格段に安い台湾から輸入しております。このタイヤを製造している優台公司の工場を訪問致しました。優台公司は、主な輸出先はノルウェーですが、『国際福祉機器展』にも出展している会社です。年間一千本以上を輸入しておりますが、現地の研修生が窓口になって支援いただくと安心です。

タイヤはオートメーション作業で作ると思っておりましたが、一つひとつ型に樹脂を注入して作っているのが驚きました。



樹脂を注入して成型



社長とミーティング

—空飛ぶ車いすプロジェクト—

期待される効果

保護者の
補助器具の購入の
保護者の家計負担軽減及び
労働力減少の効果

保護者

障がい児

成長する障がい児の体に
適合する車いすの支援を
通じて移動性の増進及び
社会参加の機会が拡大

国際貢献

国際交流を通じた資源連
携及び社会貢献の拡大

韓国修理活動のようす (2013年12月ソウル)



活動参加校

秋田県立由利工業高校
神奈川工科大学 (KWR)
新潟医療福祉大学 (FWS)

工業高校生・大学生たちは、使われなくなった中古車いすを修理して、海外の人たちにプレゼント活動を継続実施しております。このたび、韓国「釜山障がい人総合福祉館」での修理活動を行いましたので、その様子とプレゼントされた子どもたちの感想の一部を写真でご報告致します。

子どもたちにプレゼントされるまで



車いすが必要な国の子どもたちのために空を飛んで韓国に到着した車いす!!



日本と韓国の「空飛ぶ車いす」交流は12回目!! 日韓の学生とスタッフが汗を流しながら修理しました。



2013年12月に寄贈された車いすは、車いすを必要とする子どもたちにプレゼントしました。大切に使っています。



「空飛ぶ車いす」日韓交流活動で、ここ3年間寄贈された車いすは、2011年24台、2012年33台、2013年65台全部で122台です。

車いすをもらった保護者および子どもたちの感想(抜粋)



家で食事をするために使用できて便利です。前は、私が抱いて世話をすることが多かったですが、負担が減りました。ありがとうございます。

(脳の病気 1級、5歳)



大きくなっていく子供の体に合う車いすを購入することが負担でした。この車いすのおかげで子供にも家計にも役に立ちました。ありがとうございます。

(脳の病気、11歳)

2014年度 社会福祉助成交付団体

事業名	団体
ひきこもり地域拠点型アウト・リサーチ支援・ひきこもり・ピア・サポーター養成研修	レター・ポスト・フレンド相談ネットワーク
学習の弱者の方々のための学び合いの場としての自主夜間中学の運営	自主夜間中学旭川遠友塾
介護事業所における大規模災害に備えた講演会	弘前豊徳会
音訳ボランティアステップアップ研修会	仙台市市民文化事業団
2014年 自閉症・発達障害児者支援セミナー	みやぎ発達障害サポートネット
家庭訪問型子育て支援ボランティア養成講座	i-net
視覚障害者・高齢視覚障害者の自立型読書をサポートするための研修	桜雲会
第59回全国里親大会おやかやま大会	全国里親会
第52回全国知的障害者福祉関係職員研究大会	日本知的障害者福祉協会
「ソーシャルワーク研修2014」	日本精神保健福祉士協会
啓発講座講師養成	東京都中途失聴・難聴者協会
薬物依存症とその回復を理解する勉強会・木津川ダルク開設記念フォーラム「新たな挑戦」	アジア太平洋地域アディクション研究所
認知症になっても安心して暮らせる地域づくりのための研修会	認知症フレンドシップクラブ
第49回関東ブロック乳児院協議会	神奈川県社会福祉協議会
里親研修	神奈川フォスターケアサポートプロジェクト
県精進 ハートメッセージ	神奈川県精神障害者地域生活支援団体連合会
車いす修理技術講習会	神奈川工科大学車いす修理屋
「子どもの不思議。すべてに理由がある」～親も子も一緒に育つ～	阿賀野児童福祉会
第20回 歌いっぱい みんなで歌う童謡唱歌愛唱大会	金沢赤とんぼ童謡唱歌愛唱会
触法障害者(児) 地域移行研修会	岐阜羽島ボランティア協会
みんな仲間、集まれ「ウエルフェア塾」	ハルモニア
障害者生活支援シンポジウム「地域で自分らしく生きる」～障害者が地域で自立した生活を送るために～	明光会
平成26年度 相談支援担当者研修会	静岡県障害者就業・生活支援センター連絡協議会
地方自治体における障害者差別禁止条例制定の必要性についての啓発	愛知障害フォーラム(ADF)
利用者・職員にやさしいトランスファー(移乗・移動)を考える	介護保険市民オンブズマン機構大阪
障がいのある子どもたちのコミュニケーションについて・身体についての学習会と支援者向け学習会	えんばわめんと堺/ES
子どもの虐待ホットライン・キッズライン相談員研修	児童虐待防止協会
不登校児への支援ノウハウ向上のための研修	フリースクールみなも
第9回ワンダフル会(盲導犬使用者研修会)	兵庫盲導犬協会
自閉症支援者のための夜間勉強会	奈良県自閉症協会
改正・障害者総合福祉法における「サービス等利用計画」の質を深める事例検討会	あおい会
「共に学ぶ」障がいのある子どもと不登校児への学習支援と支援者の学び	子どもと家族・関係者の集まりポン太クラブ
TEACCH5デイ実技トレーニング派遣	青森県すこやか福祉事業団
デジタル環境下における視覚障害者用図書製作の現状視察	日本盲人会連合
専攻科への理解を深めるための職員派遣	いちご一会
障害者の就労等促進のための障害者アートの活性化と商品開発	日本チャリティー協会
中・西日本の障がいをもつ音楽家のためのコンテスト開催および課題整備	日本バリアフリー協会
高次脳機能障害者の絵画活動による生活の質向上の検証	ティービーアイリハビリテーションセンター
蒲田ものづくりプロジェクト～高次脳機能障がい者との協働による～	蒲田寺子屋
日韓知的障害者サッカーフェスティバル	静岡県ハンディキャップサッカー委員会
若年性および初期認知症の人と家族を支援する認知症カフェ事業	オレンジカフェ今出川
障害福祉現場における各事業所間のメンタルヘルスケアの支援体制の構築	大阪障害者センター
傾聴カウンセリング実践研究	淡路島ファミリーサポートセンターまあるく
精神障がい者との交流が市民や学生に与える意識変化に関する実践研究	すまみらい
小児がんなどの難病による長期療養児のQOL向上	ライフサポートアムルール
自治体点字広報の実態調査	日本盲人社会福祉施設協議会
滞日外国人支援に携わる人材の養成に関する調査	日本社会福祉士会
乳児・児童への「食力」を育む環境に関する調査・研究	ハートフルママ(次世代育成応援団)
法人における後見支援員の役割に関する研究	かなびの丘

助成対象事業／助成内容

	対象事業	対象経費	助成額
研修事業	集合研修	社会サービスのあり方や専門的知識、技能の習得などをテーマとして開催される集合研修事業(研修会、セミナー、講演会など)	助成対象項目経費合計の80%以内かつ50万円以内
	派遣研修	福祉施設職員などが幅広い視野と専門性を持って支援業務に携わるために、他の福祉施設、団体などで一定期間実習する派遣研修事業	
研究事業	実践研究	各福祉分野の先駆性ある事業の実践を通して行われる成果、課題のまとめなどの実践研究事業	助成対象項目経費合計の80%以内かつ50万円以内
	調査研究	社会福祉関係者の専門性の向上、現任訓練の方法や体系、また就労、福利厚生などをテーマとする調査研究事業	

ジブラルタ生命は 「ボランティア・スピリット賞(通称:SOC)」 を通じて未来を担う子ども達を応援しています!

福祉の共催を推進しているジブラルタ生命は、地域に根ざした企業であり続けるために、全国各地で社員による福祉施設でのボランティア活動や子どもたちを応援するプログラムを実施し、福祉や教育分野での社会貢献活動に積極的に取り組んでいます。今回は、地域でボランティア活動に励む中学生、高校生を応援する「ボランティア・スピリット賞(以下:SOC)」についてご紹介します。

「ありがとう!」の想いを伝えたい

スポーツや文化系のクラブに所属している中学生、高校生は、試合や発表会など、日頃の成果を発揮する場がたくさん用意されています。その一方で、誰かのために地道にボランティア活動に励む中学生、高校生には、なかなかそのような機会がありません。

SOCは、地域でボランティアに取り組む中学生、高校生に「いつもボランティアありがとう!」という感謝の気持ちを贈るプログラムです。日本だけではなく、アメリカ、韓国、台湾、インド、アイルランド、中国でも実施しており、日本では今年18年目を迎えました。表彰式やグループワークなど、ボランティアのネットワークを広げるための様々なプログラムを用意しており、すべて社員のボランティアスタッフが運営しています。

私たちはこれからも、一人でも多くの子供たちに「ありがとう!」の想いを伝えていきます。



キラキラ 笑顔を見せてくれた中学生、高校生



第17回ボランティア・スピリット賞 全国表彰式にて(東京国際フォーラム)

「空飛ぶ車いす」の活動をされている皆さんからもご応募いただいています!

SOCには、日社済の支援事業である「空飛ぶ車いす」に取り組まれている高校生や福祉施設でボランティア活動をされている中学生、高校生の皆さんからもご応募いただいております。

SOCへの応募は、社会に貢献する活動であれば、内容は問いません。一人でも多くの中学生・高校生からご応募いただけるよう、福祉関係の皆さまからのお声かけをよろしくお願い申し上げます。



自身が取り組むボランティア活動を一生懸命説明してくれた参加者

PRUDENTIAL SPIRIT OF COMMUNITY 第18回 ボランティア・スピリット賞

アワード



締切日
2014年
9月12日(金)
当日消印有効

表彰

- ◆ 応募者全員
感謝状と記念品を贈呈
- ◆ コミュニティ賞【全国より150名(グループ)】
活動支援金2万円、表彰状、銅メダル
- ◆ ブロック賞【全国より40名(グループ)】
活動支援金5万円、表彰状、銀メダル
- ◆ SOC奨励賞【ブロック賞受賞者より8名(グループ)】
活動支援金10万円、表彰状、クリスタルトロフィー
- ◆ 米国ボランティア親善大使【ブロック賞受賞者より2名】
アメリカ・ワシントンD.Cでの全米表彰式にご招待
- ◆ 文部科学大臣賞【ブロック賞受賞者より2名(グループ)】
活動支援金10万円、表彰状、金メダル、クリスタルトロフィー

応募要領

- ◆ 応募締切 2014年9月12日(金) 当日消印有効
 - ◆ 対象活動期間 2013年4月以降に行われた(行われている)活動
 - ◆ 応募方法 ボランティア活動の内容、活動を通じて学んだことなどを応募用紙に記入してください。社会に貢献する活動であれば分野は問いません
 - ◆ 対象 グループ応募: 中学・高校生が活動しているグループ
個人応募: 応募締切時12歳以上18歳以下
 - ◆ ホームページもご覧ください!(携帯からもアクセス可能)
www.vspirit.jp
- ※応募用紙はホームページからダウンロードいただけます
※ホームページからでも直接ご応募いただけます

■ 主催:ジブラルタ生命/プルデンシャル生命/PGF生命/日本教育新聞社
■ 後援:文部科学省/日本赤十字社
■ お問い合わせ先:ボランティア・スピリット賞事務局
〒100-0014 東京都千代田区永田町2-13-10 プルデンシャルタワー 電話 03-5501-5364



くっきり! 福祉の未来形

ニッ シャ サイ 日社済の 主な事業



社会福祉助成事業

公募による社会福祉関係者の研修・研究事業等への助成を行っています。



介護福祉士資格取得支援事業

福祉最前線で働きながら資格取得を目指す方々への支援のために、模擬問題・過去問題解説集を提供しています。また、提携先県社会福祉協議会の受験対策講座への助成も行っています。



アジア福祉助成事業

全国社会福祉協議会と連携した福祉の国際協力パートナーの養成と、その活動の支援・助成を行っています。



空飛ぶ車いす支援事業

アジア等の障害をもつ方々への車いす修繕・寄贈を支援しています。



社会福祉関係者の共済に関わる事業

福祉関係者の福利向上のために提携会社を通じて団体扱生命保険を提供しています。

